

令和5年度（2023年度）第4回熊本市生物多様性推進会議 議事録要旨

1 日 時 令和5年（2023年）12月 26日（火）10:00～11:30

2 場 所 熊本市本庁舎7階会議室

3 出席者 生物多様性推進会議委員(11名)

石黒 義也 委員	佐山 勝彦 委員
高宮 正之 委員長	大住 和佑 委員
甲斐原 巖 委員	永野 陽子 委員
藤本 聡 委員	澤 勝彦 委員
奥村 正美 委員	大澤 隆文 委員
蓑田 公彦 委員	

4 欠席者 生物多様性推進会議委員(1名)

藺畑 親志 委員

5 次第

(1) 開会

- ・事務局挨拶
- ・定足数報告（12名中11名出席）
- ・配布資料の確認

(2) 議題

- ・次期「熊本市生物多様性戦略」素案について

(3) その他

(4) 閉会

開 会

【事務局挨拶】

永田 努 環境推進部長挨拶

議 題

【次期「熊本市生物多様性戦略」素案について】

高宮委員長 議事次第の次期熊本市生物多様性戦略の素案について、事務局から説明をお願いします。

磯田 環境政策課主幹より、資料1を説明

梶原 環境政策課課長より、資料2を説明

高宮委員長 顔を合わせて会議するのは今回が最後になると思うので、活発なご意見等をお願いしたい。

事務局（環境政策課）梶原 素案の5ページの下に、私たちの暮らしという事で絵のついたものを入れている。ここには、生物多様性というのは、3つの違いとそのつながりなのだということと、そこから供給サービスの恵みがもたらされること。そのつながりが、表されるようなものを記載したいと考えている。そういった部分や、熊本市の地形に近い形で作成した絵、「望ましい姿」と「現状と課題」について、皆さんのご意見をいただきたいと考えているのでお願いしたい。

甲斐原委員 全体を通して、大変わかりやすく整理されている。その中で、イラストと写真の使い方について、素案の概要と素案そのもののイラスト写真については今から調整されると思うが、金峰山系で主に活動している立場から発言させていただくと、「現状と課題」とか「望ましい姿」に阿蘇の左側、有明海の横に金峰山というイラストがきちんと入って、各地域が東西南北、今の熊本市の地形にあったような形で整理しているという事で、とても分かりやすくなったと感じる。

一点、6ページの「生態系の多様性」の下のイラスト、地下水のことなので阿蘇から有明海に流れ込むという既存のイラストを使っていると思うが、できればこれも「現状と課題」のイラストのように入れ替えた方が分かりやすい。

写真が気になったのは、青が強いである。雁回山あたりは特に青が強い。金峰山も強いのですが、自分が実際活動していく中でこんなきれいな青が出るときもあるし、白い雲がある時もあるので、その辺はご意見を聞いていただいて写真を整えていただきたい。ということで、イラストと写真の再検をお願いしたい。

5ページに関連して、実は24日に自分たちで田んぼ作り、苗作り、稲刈り、餅つきまで一日でやったのだが、本当に生物多様性に恵まれた一日であった。参加者は、それぞれ単発で参加された方もいれば、ほぼトータルで脱穀まで参加した方もいて、活動団体の主催者としてとてもありがたかった。生物多様性の恵みも丸ごと一緒に楽しむような体験をしたが、おそらく5ページの梶原課長から提案があった部分も、どこの地域でも良いが、活動そのものが散りばめられて、恵みを受けているような活動、それは文化的な活動でも、食べ物でも、街づくりでも良いが、そういうところにキーワードや写真が入ってくると、私実感したようなことが、市民の皆様にも分かりやすく伝わると思った。

「現状と課題」の部分のイラストについて、「竹林の荒廃と活用」は少し違和感があった。竹林が密集して中も見えない、中に入れば足も入れないような竹が倒れている竹林の状態は存じ上げていると思うが、ちょっとニュアンスが違うのかなと思った。また、「生きものの生息・生育地の減少」でおそらくこれはコンクリート三面張りのイメージだと思うが、より現場的なところで修正いただくと、概要版の方もとても分かりやすく整理されると思う。

事務局（環境政策課）梶原 6ページの既存のイラストについて、ここが一番重要なところなので、検討したい。また、青が多い写真の使用について、事務局としては、前戦略の成果は、私たちが未来に残したい自然環境6箇所を選んだ、というのが一つ大きなポイントだと思っている。このため、その写真は美しいもの、天気の良い日の写真を載せて、これはずっと守っていきたいよねと思っていただけるような写真にしたいと考えた。アングルも考えて今調整をしているところなので、そこについてもご意見いただければと思っている。

5ページの図で、様々な活動が生物多様性につながっているという話、こういったものを

何かしら絵で落とし込んだりとか、イラストで落とし込んだりというのは私たちもずっと考えていることである。引き続き検討させていただきたいし、先ほどいただいたイラストの件についても、ご意見いただいたものは、今日委託業者も来ているので、一緒に考えていきたいと思う。

石黒委員 5ページについて、植木のスイカと辛子蓮根は皆さんご存じだと思うが、生物多様性という事で、万葉の時代から熊本にある、いわゆる肥後野菜をここにどうにかして入れ込めないかなと思っている。そうすると、それを知らない人も多いと思うが、そういうところで広がりができるのではないかなと思う。

事務局（環境政策課）梶原 前戦略も肥後野菜など載せていたが、今回まだ載せていないところがあるので、そういったところも含めて修正していきたいと考えている。これから最後のスケジュールになるが、年度末に向けてこういった挿絵やコラムなども、素案とは別に考えていきたいと思っているので、そのあたりもまた今後ご意見などお聞きすることになると思っている。

高宮委員長 前回の生物多様性戦略では、コラムに肥後野菜が載っていて、是非残してほしいという話はした。コラムについては今回全然出てきてないので、どういうものを残して、新しいものを加えるかはこれからになると思う。

奥村委員 素案と概要は非常によくできていると思う。素案の5ページと8ページの木材の写真について、「ケヤキ」とあるが「スギ」ではないかと。確認をお願いしたい。

事務局（環境政策課）梶原 確認して修正する。

永野委員 非常に分かりやすく、きちんとまとめていただいた。いくつかあるのだが、例えば鳥に関しても、守るということはやはり木があって、そこに鳥が巣を作って、そして守っていくものだと思っている。水前寺においては野鳥を守るというところは残念な形になっている。そこで熊本市が最近発表された「グリーンボンド」。この取り組みに非常に期待している。今後この戦略に生かされていくものだと思っているので、それが戦略に記載されるべきものなのか、その辺について整理していただけたらもっと期待感が出るのではないかなと思っている。

事務局（環境政策課）梶原 「グリーンボンド」については、概要版の最後のページ、基本戦略4生物多様性を「創る」の具体的な取組として「ESG債の促進（グリーンボンド）」と記載している。グリーンボンドというのは生物多様性にも資するものに使える原資となるものなので、戦略に記載しており、生物多様性の戦略と一緒にグリーンボンドの推進もしていきたいと考えている。

澤委員 個別の委員の意見が細かく書かれている。その時も申し上げたが、第2章は、もっと熊本で生物多様性を学ぶ人にとっては教科書的な網羅的で分かりやすくまとめられた内容なので、こういったことをいかに広げるための戦略も同時に必要だなという印象を持った。

そうした中で、先ほどの5ページについて、このつながりと関わりをどう見せるかという

時に、人がどうこれに関わっていくのかという視点での説明やイラスト、どういう人たちがここに関わって一緒につくっていくのかという部分の描き方が、結果、生き物の事や生物種や生物相、生物圏と事と、そのつながりを説明できていない。我々が責任をもって一緒に維持していくのだ、活用していくのだという姿を、もう一步見せることで、この戦略そのもののオーナーシップというものが、もう少し発揮されるのかなと思った。生態系サービスのつながりというのは、あくまで生き物の側だけの説明になっているので、私達はこの中にどうやって関りを持つことでラウンドしていく、回っていくのかという事での見せ方がもう一工夫あるといいのではないかな。

それが結果的に第6章の推進体制、進行管理の、この後の戦略の後の計画であるとか、個々の会議体のそのあとの、これを踏まえたもので変わると思う。そのための文言の見せ方であるとか、こういった推進会議や庁内会議、いきもんネットを※印で注釈的な扱いでは、それ自体が大事な役割を持っている部分。先ほど、事業者の巻き込みをどういうところで計ろうとするのかという事についての、方向性であるとか、このあとの色々な動きにしっかり根拠となるような描きぶりがあったほうが良い。それが今後期待される個々の事業者さんたちなどが、この戦略に載った、こういうことができそうだというフックを作っていくことができるのではないかなというふうに思う。そういった人の関わり方をどのように見せるかといった、ちょっとしたイラストが入るだけでも印象が変わってくると思うし、その他、素案の人との関りが出てくるので、こういったところの厚みをつけていただければ良いのではないかな。

あと最後に写真のところでは青が強めというのは、おそらく夏の写真を中心に選ぶとするとどうしてもあのようなになるので、春夏秋冬の季節感のあるものを入れることによって、例えば雁回山の春の桜のころとか、金峰山の紅葉のころの写真なんかがあったりしてもよいのかなと思う。夏場のコントラストのはっきりした写真が扱いやすいと思うが、そのあたりの季節感ということも織り交ぜるともう少し良い。33ページは、緑川河口のヨシ原は少し冬めいた雰囲気があって、そういったところがあることで確かに生き物は季節によって変わるよね、というのが伝わってくるところもあるかなと思う。

事務局（環境政策課）梶原 5ページの絵については、私たちも何回も差し替えたが、さらに皆さんからご意見を聞いてみようという形になった。人の関わり方、事業者さんの関わり方とかそういったものをこちらに入れるように工夫をさせていただきたい。

蓑田委員 基本戦略4の緑被率であるが、何と何をもって緑とするのか、教えてもらえるとありがたい。

事務局（環境政策課）梶原 この緑被率は、熊本市の緑の基本計画によって目標としているものである。緑被率の中にこういったものが入っているかということか。

蓑田委員 森林は緑ということがイメージできるが、それ以外にこういったものが含まれているかということをお願いしたい。

事務局（環境政策課）梶原 調べてのちほどお伝えする。

永野委員 緑被率が熊本は非常に低い。これは非常に古い時代に決まったもので、他県を調べていただくと分かるが、水と緑という割にはとても低い。そこをきちんとし、もう一度基本的なところを考えていただきたいと思います。

事務局（環境政策課）梶原 緑被率が低いということだが、私たちも、今あるものを維持していくことは当然のことながら、質のいい緑をどんどん増やしていきたいと思っている。先ほども取り組みが大事だということを申し上げた。今年度は何度か推進会議をさせていただいたが、来年度以降は、これまで年1回だった推進会議を、年度の初めと終わりの2回開催し、特に緑の創出について何をすればいいのか難しいところがあるので、そういったところは年の初めの推進会議でご意見をいただいて、それをどうやれたのかというところを毎年の進捗会議の中で報告し、それを来年に生かすというような形で、戦略策定後の話になるが、みなさんと話しながらできることからやっていきたいと考えている。

大住委員 江津湖では今、元々の植生がどういうふうになっていたのか、まず調べて、それに戻すようなことを考えていこう、というような話をしている。そしてその時にどのような昆虫がいたかとか、どのような魚がいたかとか、どういう生態系があったのかということ調べていこうとしている。今回のことに直接ではありませんが、緑被率ということを考えてときに、単純に市民が緑の木が植えてあるというような発想をしないように、緑がどういう意味があるのかということ伝えられるような、生きものもとなのだ、ということが必要なのではないか。そして江津湖は地下水がこのように湧き出ているから緑が豊かなのだということと言えるような緑にしていきたいというような話をしている。それをいってけば江津湖は弱いという感じがしているので、そういうことを取り組んでいくということが大事なのではないか。だからそれが伝わるように、というお話はさっき軽くなさったので、よかったなど、そういうふうを考えておられるのはとてもうれしかった。

事務局（環境政策課）梶原 おっしゃるように今から（市民の皆様で）やっていただけるという話もあるし、今年は私たちも江津湖の希少種の調査をしている。まだ始めたばかりなので、この場でご報告はできないが、そういったものと合わせながら、先ほどから何度も言っているように、単に緑を増やしていくのではなく、やはり生きものの生息・生育地となるような緑地の創出についてみんなで考えていければなと思っている。

事務局（環境政策課）磯田 先ほどの緑被率について、自然林、人工林、竹林、果樹園、野草地、水田、畑、裸地、水域の9種類に分類してそれぞれ緑被率の3つの区分でそれぞれを使って算出している。その1つ目の区分が自然林、人工林、竹林、果樹園、野草地の緑被率、2つ目の区分がさらに水田、畑を加えたもの、3つ目の区分がさらに裸地、水域を加えたもの。この3つのパーセントを出している。

事務局（環境政策課）梶原 熊本市の緑の基本計画での緑被率は、今の1つ目を使っているようなので、もう一度改めてお願いしたい。

事務局（環境政策課）磯田 （指標の緑被率は、1つ目の区分である）自然林、人工林、竹林、果樹園、野草地である。

甲斐原委員 それに関連して、実は先ほど言いました、餅つきの後の片づけでメンバーと話をしたのだが、コロボックルの活動として、森を育てる、直接関わっている植林、肥後銀行が活動されているのもずいぶん昔に参加したことがあるのですが、あの場合、植林はできるのですが、育林、育てていくのがとても難しい現状がある。今、育林に力を入れていて、水源地を大事に育てていこうというようなことを改めて教えていただいて、うちの活動は山から海までつながるようなことをやらせていただいている、これ以上あれもこれ

も無理だなということで、育林までいくのは他の団体にお任せして、やはり今2番目に出た、水田、畑、などはすでに「やさいの楽校」、「田んぼの楽校」などでやっているの、そういう生態系の大事な森につながっているのだ、と。川の横に川つきの林もあるし森もあるし、そういうトータルで、今出た緑被率も、1番にこのままいくのか、2番まで広げてやっていくとなると、広い生態系を含めた緑被率というのが生きてくるので、それを今から変えるというのは難しいとは思いますが、広い視点をもって生態系をトータルにとらえて、チャレンジして、数値を目標に掲げるということが、第5章の基本戦略の成果指標に直につながってくるのではないかと。これはもう一度検討が必要なのでは。なので、今回はこれで行くとして、梶原課長が言ったように、やりながら改善していくことが必要なのではないかと。

同様に、成果指標の基本戦略1、2に、知っている人の割合、学んだことがある人の割合、これは今までお尋ねしたところで市役所が持っているアンケートをもとにそれが継続として評価指標になるからということだったが、この知っている人、学んだことがある人の具体的な値については、アンケートをこれまでのものを重要視しながら取っていくということでしょうか。

事務局（環境政策課）梶原 8年間の計画になるので、その中で生物多様性の戦略の取り組みは、それぞれの分野別の取り組みである。熊本市の総合計画も、9年間の計画になるが、その間に中間見直しというものがある。なので、そういったところを見ながら当然リバイスしていけるところはしたいと思っている。ただ現在のところは、何かしら数値で表せるもので、私たちがやれること、というのをまずはこの戦略の成果指標として出して、それをしっかり関連付けながら状態目標に向かってみんなで取り組みを進めていくというところで、今回はこの提案をさせていただいた。

高宮委員長 先ほどの緑被率の詳しい説明というのは資料編のところ、でてくるか。

事務局（環境政策課）梶原 はい、掲載させていただく。

藤本委員 だいぶ分かりやすくなった。先ほどの5ページの下絵のところは、これは仮置きだと思うが、この文章を読んでこれをイメージする絵というのが必要だと思う。先ほど肥後野菜の話もあったと思うが、そういう歴史的な、地下水もそうだが、そういうものが一つの代表例として表せると思う。後段では、光合成とか酸素とか入っているが、そういったものは「これは」というものはなかなか難しいので、多様性の例みみたいな形で置くのかなという感じはした。元々分かりにくく、多様性は一言では言えないので、多様性の例みみたいな形で、とりあえず頭に最初に入れてもらうイメージの絵かかなにかを置いたらどうなのかなという感じはする。文章にする中に最初に頭に入って、こういうのが多様性なのだというのを見て、自分の感覚で分かるというのが大事なかなというのが一点である。

もう一つ、成果指標のところ、毎回同じところで申し訳ないが、資料2の7ページ、5番目の「活かす」というところで、この前も申しましたが、私的に思うのは「活かす」ところの前提がたぶん多様性と、我々の生活とか経済と発展と両立しているイメージだと思う。なので、1から4まで生物多様性について分かってもらって、学習してもらって、守って、創っていく。そして最後は生物多様性を残して我々は生活していくのだというところが、基本なのだろうと思っていて、そうになると、「誇りに思っている人の割合」にほぼ近いのだが、「誇り」をもっと一步踏み込んで、例えば自分たちの暮らしとか、あるいは農業とか、商工業とか産業とか、いわゆる経済のことなのだが、そういうことが熊本では「地下水の恵みによって恩恵をもたらされるということを理解していますか？」というよ

うな設問でもよいのかなと思う。このような設問が新しくつくれるかどうかは分からないが、これから総合計画で作っていくときに、地下水の話は熊本市では大きな話なので、複数の設問がもし作れるのであれば「誇りを持って」でもいいが、一步踏み込んで、暮らしや産業などは地下水の恩恵によってもたらされているということへの理解を問う設問を作ったらどうかと思う。

事務局（環境政策課）梶原 「活かす」の指標については、市内でも今まさに、その上位計画の総合計画でも、こういった地下水を活かした熊本市の魅力発信だったり、プレゼンスの強化だだと言われている中で、何回もいろいろと協議をしながら修正をかけているところである。以前、藤本委員からいただいた、例えば地下水があるから企業の立地がきた件数とか、地下水を実際使った量とかいろいろあったが、直接的に結びつけたり、件数を出したりするのが難しいということもあったので、まずは上位計画と整合性をとるためにも、地下水が活用されていることを私たちが発信し続けることで、それに対して誇りを持ってもらう市民の皆さんを増やしていこうというところで、これを提案したところである。アンケートの項目については、当然私たちは総合計画のアンケートもあるほか、これとは別に、環境総合計画のアンケートもあるので、毎年その時にあったこととお聞きしたりする中でやらせていただいて、みなさんがどう考えているのかということはいささか把握していきたいと考えている。

永野委員 水前寺に住んでいるので、水前寺という名前が付く野菜を大事にしている。水前寺菜というのは熊本市から消えつつあって、畑がないから市内には、私たちも一生懸命育てて、栄養分析とかして今は学校の給食でも食べられるようになった。ななつ星などで使っていただくとか、名古屋の大学から研究に来られるなど、いろんな展開をしている。ただ、水前寺もやしがお正月どうなるのかとか、水前寺セリというものもあるが、こちらも作られた方がそのまま県外へ出される。水前寺のりについては嘉島であるが、今は生きているのです。どうにかがんばって作っておられる方がいる。私たちもいろいろお話ししたり、作ってみたりして分かるのは、水が大好きなのだということ。だから水前寺菜も水をやればどれだけでも伸びる。なので、それを地域の人に言って、おうちのプランターでも育てて食べることが出来ますよということで、みなさんに配布している。だからそういう地域にあった野菜という意味では、確かに出ないとおかしくないものかなと思うので、基本野菜としての区切りとなると分からないが、今回の戦略では、そういうのも大事にしていきたいと思う。

事務局（環境政策課）梶原 万葉の時代からというお話もあったが、昔からあるものが私たちの食卓に今はなじみがなかったりもするので、そういったものは当然大事にしていくべきものだと考えている。戦略ができた後の取り組みとして検討していきたいと思っている。

大澤委員 全体的に分かりやすくなって、国の戦略よりもビジュアルで一般の方には通じるものになっているという印象を持った。素案概要でいただいている成果指標の一覧のところ、先ほども少し話があったが、緑被率が32.8%の維持で、果たしてこれが妥当なのかどうかというところは、正直自分も熊本市に住んで浅いのでこれが数値として妥当なのかよく分からない。本当はもっと高みを目指した方がいいのか、そもそもこれまでの推移がどうだったのか、なかなか増やしたくても増やせなかったのかというような経緯がよく分からなくて、これは資料編の中でここに載せている成果指標のこれまでの推移はグラフで出していただいた方がいいのかなと思った。温室効果ガスの削減率も40%以上と書いてあるが、ベースラインがいつで、いつから比べて40%削減しようとしているのか、それは別の計画をよく参照すれば書いてあると思うが、これまでどういう減少をたどってきて、

これから先どこまで40%、たぶん2030年なのだと思うが、いつをベースラインに40%減らそうとしているのかというのは、資料編に書いていただくとありがたいと感じた。

今回エリアベースの、例えば保護地域とか共生サイトみたいなところは数値目標に入れていない。これはいろいろ検討した結果そうなったと思うので、そこは特に異論はない。しかしながら、素案概要の区別の取り組みで、例えば「ふるさとの森基金の活用（環境保護地区）」という記載もあり、市内でもこうした保護地域的なところが色々あるのであれば、本文中で示されている区別の自然環境・生物多様性の特徴の地図の中で、（今、保存樹林と身近な自然と巨樹巨木というのが示されているが、それ以外ももう少し広がりをもって、）保護地域はここに載せた方がよい。自分も含めて普段住んでいる市民は、市内のどこに保護地域があってどういう保全の取り組みをしているかということをつまみ知る機会がないので、保存樹林以外にも保護地域みたいなものがあれば願います。せっかく地図をのせるのであれば、ここに保護地域も図示していただいて、今は赤と緑で少し元々あるこの写真の緑と重なっていて分かりづらいところがあるので、配色も少し黄色や白とか使って工夫して見やすくしていただくとありがたいと思った。

事務局（環境政策課）梶原 最後にごいただいたご意見はごもっともだと思うので、少し工夫をして地図に落としこめるように、特に環境保護地区は熊本市独特のものであるので、そこは入れていければと思っている。成果指標の細かい説明であるが、確かに温室効果ガスは基準値が世界で決まっているが、一般の方には分かりにくいと思うので、分かるような見せ方をさせていただきたいと思う。

甲斐原委員 25ページの金峰山での活動のところ、ヒアリングの時に伝え漏れがあったと思う。3行目、「遊休農地を整備し」の後に「景観作物やエゴマ」というのを削除、あとは「もち米・野菜の栽培と食育としてやさいの楽校の活動が行われています」ということをお願いしたい。それから麓にある本妙寺も、お寺で止まっているので本妙寺山と入れていただくと本妙寺も含めた広いところでムササビが生息しているので、本妙寺山としていただければ。下から2行目、金峰山での活動で「中・大型哺乳類（タヌキ・イノシシ）や」の後に「魚類・タナゴ類とかスナヤツメ等」とか希少な種がかるうじて生きているのでそれを入れていただければと思う。

全般で植物とか動物を私たちが表記するときは、カタカナで統一して表記しているのが、それが少しバラバラなところがあり、生きもの関係のところは間違っていれば修正していただいて植物動物はカタカナで表記してあれば目に入りやすいのかなと。竹林はカタカナにするかどうかは存じ上げないですが、種名はカタカナで。

それから5ページの下話題がたくさん出ていて修正が難しいだろうと思うが、今回A4判の先ほどお話しして、自然概要がわかりやすくなったのだなと。このイラストを活かして、情報提供の時にコロボックルがパンフレットを作ったが、あのイラストのイメージを持っていて、なのでこの中に空気のことだったり森のことだったり文化的なとか、レクリエーションとかイラストを入れていって、そこに5ページの下にあるような、これが基盤サービスにつながりますよ、とか、そういうイラストを使われて、そこに人が参加して、トレッキングしていたり美味しいものを自然のところで食べているとか栽培しているとか、そういうのが入ってくると先ほどの意見を含めて、ただこのスペースに入るかどうか心配だが、うまく使われると先ほどから皆様から出ている意見が入れやすいのかなと思った。

事務局（環境政策課）梶原 細かい文言の修正はもう一度確認し、きちんと丁寧に修正して欲しいし、他にもいろいろお気づきの点あるかと思うので、今後もご意見をお願いしたいと思っている。事務局が提案している熊本市の絵を使ったものであるが、イメージとし

ては、今までは横のA3判で未来に残したい熊本ということで、それをより熊本の地形に落とした形で作成してみてもどうかと考えているところである。そこに具体的にいろんな活動をされている内容を落とし込んでいくことを考えているが、先ほど言った5ページの下のところは生物多様性とそのつながり、それが供給サービスにつながっているという絵が難しいと考えているが、そこも検討させていただきたい。

石黒委員 素案の60ページ、基本戦略の多様性を「活かす」のところ。例えば、熊本市は「生物多様性について学ぶ環境を提供します」、それから市民は「生物多様性に配慮した行動を行います」、市民団体は「自然環境の保全や利活用に努めます」、事業者は「情報開示を行います」あるいは「地域の発展に貢献します」と、目標が出ている。それをどういうふうに、熊本市、市民、市民団体、事業者に啓発をするか、そしてそういう行動を本当に起こしてもらうようなことを各団体、それぞれがやるかというところを押さえないと「活かす」ということにつながらないのではないかと思う。言葉ではここに「～します」という形で出てきているが、そこを各団体に啓発をどうするかと、その素案を見ていただくだけでは、そこは進まないのではないかと、というふうに思った。

事務局（環境政策課）梶原 ご指摘のように作っただけでは意味がなく、それをそれぞれの役割のもとにやっていただくために私たちに何ができるのかというところであるが、ひとつは、いきもんネットという情報の拠点である。今、17の市民活動団体が登録されているなかなか市民団体同士のつながりや連携ができていないところもあるので、そこはせっかくそういったネットワークがあるので、そこを活用して、新しく生物多様性戦略ができたことを契機にもっとすすめていっていただきたいと思っている。普及啓発も本当に難しく、今までもいろんな人たちがやってきたが、取り組みが思うように前に進んでいないということもあるので、そこは反省を踏まえいろいろ工夫をしながらやっていきたいと思う。

佐山委員 全体的に写真やイラストを使って分かりやすくなっているという感じがした。また、熊本市の代表的な未来に残したい6つの箇所以外に、各区の生物多様性の特徴という部分で、自分が住んでいる地元の状況を知ることができる点は有用であると思った。きれいな写真、きれいなイラストを使用するのは良いのだが、COP15の会議では、ネイチャーポジティブで「生物多様性の損失を止め、発展させるための緊急の行動をとる」という、かなり危機的な状況にあることが話し合われたと思う。しかしながら、全体的に危機感が伝わってこない。我々が今いる現状というのはかなり危機的な状況であるから、生物多様性の保全のための行動を今からすぐ取らないといけない、という危機感が少し足りないと感じた。この2030年目標はいいのだが、単にこれいいねと思って終わってしまうような気がする。これまでも愛知目標を2010年に作って、10年後にどうなったのか。生物多様性の損失の速度を「顕著に止める」と目標を作ったのだが、結局その愛知目標がほとんど守られなかったという状況になっている。COP15で採択されたネイチャーポジティブで、この危機的な状況をなんとかしたいということだと思うので、我々は本当に危機的な状況にあるということをもう少し強く言ってもいいのではないかと気がした。そうしないと今後7年間も、これまでの10年間と同じようになってしまわないかと危惧している。あつという間に7年経ってしまうし、あつという間に2050年は来てしまうので、そういうことも考えると本当に今やらなければいけないということをもう少し危機感をもって取り組むという姿勢があった方がいいのではと思った。

もう一点、生物多様性を「知る」とか「学ぶ」とかというのでもいいのだが、やはり実際に自然と触れあうこと、知識だけでは本当に物足りないと思う。実際に自然や生物に触れ合うということがやはり重要なことなのではないか。したがって、例えば、遅いかもしいが、成果指標としては、身近な自然と触れ合う機会を持ったかどうか、その割合を指標

にするというのも方法かなという気がした。

事務局（環境政策課）梶原 1つ目の危機感というところだが、これはまさにおっしゃるとおりで、例えばCOPは生物多様性の国際条約の話なので、どうしても熊本市民は「いや、熊本市は違う」と思ってしまうのではないかとということもあり、第1の危機、第2の危機に熊本市の実際の現状というのを入れたところである。それと11ページにも、今なぜ危機的状況かというのを、何度も大絶滅というのは行われたのだけれど今まさに絶滅というのは人の手で初めて壊されようとしているのだと、その速さというのが、地球が誕生して以来類を見ない速さであるとか、いろいろ言葉で書いても分かりにくいので分かりやすいなグラフを持ってくるなど、一応そういった配慮はしているつもりである。ただ、まだまだ足りないということだと思うので、これは今後私たちもこの戦略ができた後にいろんな啓発をやっていくのだが、不安を煽ってはいけないが、やはり熊本市も例外ではなく今やらないと取り返しが見つからないのだということ、いろんな場面でいろんなことを活用しながら皆さんにお示ししていかないと考えている。

2つ目の自然と触れ合う機会という話であるが、これもずっとそのように言われているし、自然活動に興味がない方をいかにそちらに持っていくかということ、今回テーマの1つにしているというところであって、経済の発展、社会教育の発展、これもやはり自然環境がないとそこにたどり着けないのだという話とか、全庁的にも直接関係ないと今まで思っていたような取り組みをここに載せることで、最終的に私たちの地球環境、自然環境の上に全ての生活が成り立っているのだという話はずっとしてきたところである。来年度以降は、具体的に何をやるかというところでひとつ重要なのが、生息・生育地の創出だと思っているし、それとその身近な自然に触れ合う機会、私たちはいきものフェアとかやっているが、そういったものの広報周知の仕方を工夫していくかだとか、いきもんネットでいろんな活動されている方たちとどうやっていくかなど、来年度以降の戦略を進める中で、さらに検討しながら、たくさんの方が参加できるように工夫していきたいと考えている。

佐山委員 地下水のリーディングプロジェクトについて、熊本の地下水の良さをアピールするというのはいいのだが、たぶん熊本の中には自分たちの地下水の良さやありがたさというのは、なかなか分かりづらいと思う。私は外から来て、その良さが分かったので熊本にずっと住んでおられる方は、外に出てみると地下水の良さやありがたさがよく分かるだろうし、ずっと熊本にいる場合でも外部の方と情報交換することで、熊本の地下水の良さがよく分かると思う。中にいるだけではなかなか分かりづらいので、外部とコミュニケーションを取るとよい。地下水や水をキーワードに他の姉妹都市でもいいのだが、そういったところと情報交換などをすれば、より熊本の地下水の良さやありがたさが分かるのではないかという気がした。

環境推進部長 永田 おっしゃる通り、我々がまず恵みを受けて生活しているということ自体を広く市民の方に共有するというか、例えば小学校3年生くらいは環境教育ということで自分たちは地下水で暮らしているということを初めて知るわけであるが、ではその恵みを未来永劫きちんと次の世代に伝えていくということが重要であるし、まずもって恩恵にあずかっているということを市民がまず広くPRしていくことが大事である。おっしゃる通り外に出てみないと分からないことも多分多いと思う。おっしゃるようなことをきちんとPRといいますか、広報していきたいと思っている。

甲斐原委員 最近特にコロボックルの活動に参加される方、保護者アンケートにも、子どものアンケートにも、生物多様性のイラスト、SDGsのイラストを入れて、生物多様性はこういうふうなイラスト、キーワードとつながるのだよという意味も含めてアンケートを改

善して、活動ごとに月1、2回アンケートを取っている。子どもたちは高学年になると生物多様性に〇がついてくる。保護者の方は少ないが、来られている方は生物多様性に〇がついている。SDGsについては、子どもたちは学校での学びもあって、社会のいろんな情報を知って丸が増えてくる。

ですから前回からずっと言っているが、そういうふうな啓発という事から考えると、先ほど梶原課長がおっしゃったいきもんネット、これもしつこいほど何度も言っていますけど、結局各団体は、それぞれのフィールドで一生懸命活動していて、今、人・物・金のネットワークのところで引継ぎが難しいという現状ははっきりしているわけである。佐山委員がおっしゃったように、この危機感は現場の者は持っている。ただ自分たちだけではどうしようもないという現実にはっきりある。であるが、こういう場面に参加させていただいてとてもありがたいと思っているし、このネットワークをいかに私たちが活かしてそれぞれの専門の方たちがおられるから、そこにつなげられるような、それぞれの場所でそれぞれの活動をされているけれど、生物多様性というキーワードで恵みをどうみんながいただいで、熊本市民が豊かに生きているか、どう危機があるかということ。

私はこのイラストがとても気に入っていて、現状と課題を、この中に佐山委員がおっしゃった危機的な事をもっとストレートに、地下水が減るとかを入れる。概要版は、子ども達にも分かりやすくということで書かれると思うが、それをストレートに、言葉はいつでもいいわけで、見てわかるような危機的な状況をはっきり出して、それが結果として望ましい姿として。ペットボトルではなくて、水道から水を飲む。私もペットボトルの水を飲むが、何年か前はペットボトルの水なんか飲んでなかったのだが、それがいつの間にかテレビに影響を受けて買うようになった。そういう日常生活の中に地下水という事を出すのであれば、熊本市民はペットボトルの水をなんで買うのと、水道ひねればペットボトル一本水筒があれば買う必要がない。そういう現状と望ましい姿のような、今回地下水を強く出したが、そういう書き方もあるのではないかと思う。

佐山委員がおっしゃったことを受けて、私も危機感が足らなかったなど、現場で子どもたちと活動して伝えて、若いお父さんお母さん、30~40代の方が来られるので。だから市民の方は、本当に熊本の自然を子どもたちに伝えたい、自分も体験したいと思っていられるわけで、それを私たちがいかに吸い上げてあげて、ネットワークに乗せていくかというのが大きな課題ではないかと思っている。今いいものが出来ているので、これをどんどん利用したらアピールできるじゃないかなと思ったところである。

事務局（環境政策課）梶原 基本的には、こちらのイラストを使って、今後の姿や、危機感をもう少し具体的に入れていくようにさせていただきたいと思う。

高宮委員長 他にないか。これからのスケジュールを説明していただきたい。

事務局（環境政策課）緒続 いただいたご意見を反映させた後に、今後庁内会議、またパブリックコメントなど経て、年度末の策定に向けて取り組んでいく。

高宮委員長 まだ細かい文言の修正とかいくつかあったと思うが、そのようなことがあった場合はメールで構わないと思うので、事務局の方までご連絡いただければと思う。本当に細かく修正されている感じが分かったが、まだいくつかあると思うので、お願いしたい。

大住委員 第5章の65ページの最後のところ、成果指標の●%がほぼ100%になればいいなど。2030年目標だからそうなって欲しいなどと思う。小学生は今、水保全課が力を入れていて、今誰に聞いてもあなたの家の水道水は何でできているの？と言うと、地下水100%ってみんな言え

る。言えない子は外から来た子なのだなど。それは改めて教えてあげれば良い。それくらい小学生はすごいというか、努力が実っているので、すごい数を示してほしいと思う。

蓑田委員 素案の中に、前回のご質問というかご意見があって、県のレッドデータブック及びレッドリストの改定があるという話の中で、それとの整合を取ったほうがいいという事であった。熊本県では、今レッドデータの改定をやっている最中で、実はレッドリスト自体の改定が来年度6月以降に公表になる。新たにレッドリストの中で改定があった分については、再度確認し、熊本市と打ち合わせをしながら、最新のデータにしていきたいと思うが、2019年から変更がない部分については、そのまま載せるという事で行きたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

高宮委員長 事務局もそのようお願ひしたい。最終案は事務局にお任せして、私どもの方で確認するという事でお任せいただくという事でよいか。また、細かい修正、写真の差し替えなど、これからいっぱい作業があると思うが、それ以外は素案でいきたいということであるが、それに対して承認いただけたら、このまま進めていくので、よろしくお願ひしたい。

それでは予定していました議事がすべて終了したので、進行を事務局にお返りする。

事務局（環境政策課）緒続 これをもって令和5年度第4回熊本市生物多様性推進会議を閉会する。

閉会